

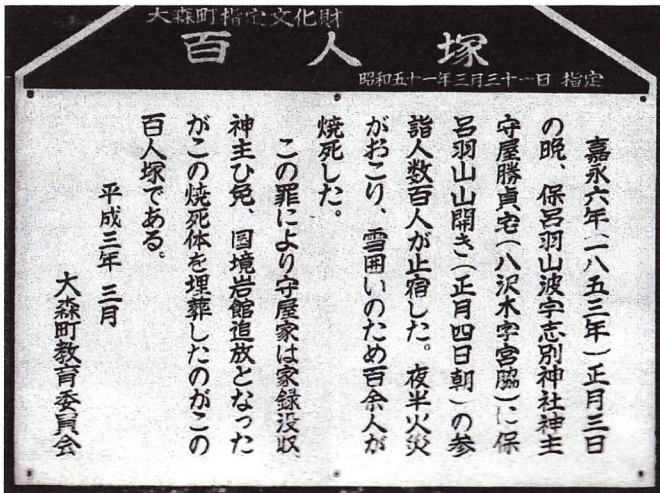
# 友の会だより

令和5年  
3月  
No.52

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山 52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail : info@akihaku.jp

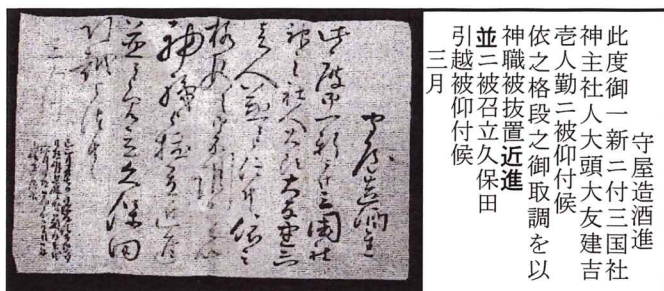
## 令和4年度友の会活動報告

### 古文書整理ボランティア



上は保呂羽山波宇志別神社里宮(横手市大森町八沢木字木根坂)の近くにある「百人塚」の説明文。

守屋家は江戸時代、大友家と共に同神社の神主と藩内の社家大頭を務めた家で、私たちは守屋家の子孫の方から寄贈された資料を解読整理している古文書整理ボランティア。作業中の一角から歓声が上がったのが下の古文書(右は翻刻文)。



「百人塚」の説明文では、神主守屋左源司勝貞が、保呂羽山参詣のための止宿人百余人を焼死させた罪で、守屋家は家禄を没収、神主をひ免され岩館に追放、波宇志別神社は大友家一人神主になった。だが解読を進めると、追放から2か月後に藩士大山鉄之助の弟造酒進勝承が守屋家に養子に入り、神主ならびに社家大頭を務めたことが分かった。造酒進は戊辰戦争に神主部隊の支配形で出陣(慶応4年9月)、その功で近進並から近進に召し立てられた。時代が変わって守屋造酒進は守屋伴男として県庁職員になり戸籍係、社寺調査、明治天皇御巡幸などの職務を行ったことも分か

った。

結果、守屋左源司勝貞は家禄没収、神主ひ免ではなく、岩館越しに領外追放(亀田領羽広村)。跡を継いだ造酒進は社家大頭を務め、藩士に召し立てられ、波宇志別神社は大友家一人神主になった。古文書が真実に導いてくれ、定説が覆された。資料は子孫の方から寄贈されたが、私たちは左源司や造酒進の人となりにも触れ、子孫の知らない先祖の嫌な業をも見てしまうことがある。それも古文書だ。

(古文書整理ボランティア 地主泰子)

### 地質ボランティア

2019年から取り組んでいる収蔵庫内の植物化石標本の整理・写真撮影を昨年の10月に終了した。これまで植物化石標本820点あまり、カウンターパート含め1200枚ほどのデジタル画像を作成し、引き続き動物化石標本(主に貝類化石など)の標本リストとの照合・整理と写真撮影に取り掛かっている。貝類化石の写真撮影には立体的に見えるよう陰影のつけ方などに苦勞している。唯一の楽しみは思わぬ化石に巡り合えた時で、あの産地から産出していたのかという驚きとともに、自分が採取できなかった悔しさを味わいつつ、こんな状態の良い標本をいつか展示できればとの思いも…。

できる限り早く作業を終了させ、化石標本リストと画像をネット上に公開し、秋田県立博物館に興味を持って来館いただければ幸いです。



化石標本を撮影する様子  
(地質ボランティア 五井昭一)

## スマレ会（植物標本整理ボランティア）

コロナ感染も3年目、withコロナと変化したため、2022年度のスマレ会は、ほぼ前と同じように活動できました。20年前の収蔵庫内には未整理標本が入った段ボールが山脈のように積まれていましたが、徐々に減らしてきました。今年度は最後の大きな山（10箱程度）崩しに取り掛かりました。しかし、新聞紙のはじめに書かれた採集データをラベルに書いた後に、さく葉標本を台紙に貼付するため、かなり時間がかかりそうです。国立科学博物館が行っているS-Net（サイエンスミュージアム ネット）への標本デジタルデータ提供は、昨年度までの2年間でほとんど活動できなかったため、提出できませんでした。そこで来年度は提出できるように台帳への標本登録作業を3人に増やし、スピード化をはかることにしました。観察会は4月から10月まで月1回行いました。その中で6月の森吉山は快晴に恵まれ、たくさんの高山植物の花を見ることができました。青空の下できれいな花を見ながら、そして久々に皆と食べたお弁当は格別美味しくかったです。10月の八幡平大沼は小雨で寒い中、紅葉や色付いた果実などを観察しました。お昼は休憩所に食堂が併設されていたため、持参したお弁当を食べずに温かいラーメンなどを食べ、お腹から暖まりました。そのおかげか皆風邪も引きませんでした！（スマレ会 阿部裕紀子）



シラネアオイ（森吉山）

## 古文書同好会

古文書同好会は毎月第3金曜日の午後に開催されます。会員がそれぞれ事前に取り組んできた古文書の解説をめぐり、お互いに意見や質問を投げかけます。

『利右衛門』ではなく『利左衛門』では？

「この文字は『担』なのか、『控』なのか？」

読み方に迷う文字や意味の分からない用語などが出てきた際には、担当職員の新堀副主幹が適切な助言や

解説を行い、全体の見解をまとめます。こうして完成された古文書の翻刻文は『秋田県立博物館研究報告』へ掲載され、当館の貴重な財産となっています。

これまで取り組んできた茂木家資料「日記帳」の解説にも区切りが付き、2月からは守屋家資料所収の「聞書秘密」の解説へ進みました。これは、幕末の京都で起こった禁門の変について、戦闘の様子を記録した史料です。会員からは「今度の史料は難しい…」という声も聞かれましたが、新しい古文書に巡り会えたことへの嬉しさも同時に感じ取れました。（歴史部門 黒川陽介）



古文書の解説をめぐり議論を交わす会員

## 考古ボランティア

毎月隔週開催の考古ボランティアは8月から再開し、日曜日を中心に活動しました。秋の企画展「秋田の縄文遺産」では製作した魚形文刻石の拓本を展示。土器作り教室の準備に汗を流し、次年度の新たな教室開催に向けて貝輪の製作実験などを行いました。

活動内容は次のとおり。8/7 拓本の練習。8/21・9/4 魚形文刻石の拓本製作。10/2・9、11/5・6 土器作り教室の準備と補助。11/27、12/11・25 貝輪の製作実験。2/19、3/19 火起こしキットのメンテナンス。

（考古部門 加藤 竜）



阿仁根子の魚形文刻石